

## フィッシングボート製作記③

ついに  
見つけた!これが国内最強クラスの  
艦装をまとった、スモールボート  
最小クラスの9フッターだ。その名は〈リトルアドベンチャー〉  
ホープ「Ninja265S」

スモールボートの艦装取材をしていると、これ以上の艦装は、もうめったにお目にかかれないだろうといつも思わせられる。しかしそれが次々と現れるのである、スモールボートの“艦装パティシエ”ともいえるスペシャリストが……。



清本直重さん

釣り仲間には「濱ちゃん」と呼ばれ、Ninja265Sをトラックに載せ、熊本県の天草まで遠征する。愛艇〈リトルアドベンチャー〉は、男女群島への磯釣りのときに利用していた渡船の名前がアドベンチャーだったから



全長2m8cm、約9フィートのホープNinja265S。一体型FRPボートの中で最小クラスのこのボートが、国内最強級の艦装を施した



濱本さんの船装の見事さは、海に浮かぶとさらにその“男前”ぶりを発揮する

ここに紹介するのは福岡県在住の濱本直重さんという。

長崎県の生月島出身で漁師の長男だ。家業の漁業は兄弟が継ぎ、自身は別な仕事をしている。だが根っからの海好き、暇があれば釣りに行く。これから紹介するスモールボートを手に入れる前から、15フィートの和船を持っていたという。

その濱本さんがスモールボートの世界に参入したのは単純明快——いろんな場所で釣りがしたい！そこで雑誌(本誌SMALL BOAT)で勉強、自宅近くのホープ社へ行き、意中のNinja265Sを購入した。

選んだ理由は、トラックの荷台に積んで釣り場へ通うつもりだった。しかし買ったものの、乗っていた軽トラックの荷台には、いくら9フィート弱のボートでもはみ出してしまう。そのため普通車サイズのトラックへと乗り換えた。趣味が仕事に優先するとは、かなり“男前の

行動”ではないか。

〈リトルアドベンチャー〉と名付けられたこのNinja265Sの船装——なぜここまで凝っているかといえば、トラックを乗り換えねばならなかったからだ——ボートの購入は2009年8月だが、トラックを乗り換えて無事進水できたのは、月日が経つこと1年1ヵ月後の2010年9月。ボートを買ったが乗れないというモンモンとした期間が、リトルアドベンチャーを最強のスモールボートへと進化させたのだ。

濱本さんの船装理念は「安全第一」である。そのために、補助浮力体として大型のフェンダーを4個装着し、万一落水したとき再乗艇しやすいように、チェーン式のラダーを取り付けた。さすが漁師の息子、海の怖さはよく知っている。むろん海の楽しさも知り尽くす。安全なボートを自分の手で造ろうと決意、それがこの〈リトルアドベンチャー〉なのである。

では、国内最強級の船装をとくにご覧あれ。

トラック積載がはやるかも？

スモールボート版  
サンダーバード2号化計画

濱本さんがNinja265Sを船台ごと積載するために、わざわざ軽トラックから乗り換えた普通サイズのトラックは、釣り場でのボートの昇降や準備が短時間で済み、保管場所への移動もスムーズだという。

このシステムを見て、はっと思い浮かんだのが、SF人形劇の「サンダーバード」だった。特別機装が施されたトラッ

クは、機材輸送機、あのグリーンが特徴のサンダーバード2号ではないか。Ninja265Sといえば、水上&水中救助艇のサンダーバード4号で、トラックに載せるために改造されたボートランチャーは、さしずめナンバー4と表記された、あのコンテナといったところだろうか。なんとも男の子の心をくすぐるシステムである。



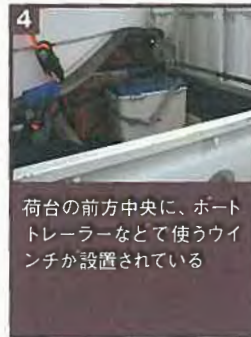
釣り場から撮影場所まで移動してきたところなので、ちょっと積載はラフだが、輸送中はおおむねこのような状態という



トラックの後部が開き、2×6材を使ったスロープレールが設置される



トラック荷台の後部扉のヒンジ部分を利用し、アングル金具で2×6材を固定する



荷台の前方中央に、ボートトレーラーなどを使うウインチが設置されている



ウインチハンドルは延長され、このように荷台横で操作できるようになっている



スロープレールを降りているところ。4輪なので、レールを外れることはないという



ウインチを緩めつつ荷台ではボートを押すか、スロープにすれば自然に下りていく



ランチャー

(左)「こういうランチャー市販されてる？」と聞きたくなるほどきれいに改造されている  
(上)ボートランチャーはファクトリーゼロ製を改造。重石は昇降時に浮かないようにするため



バウの下にはスペースが生まれるため、クーラーボックスなど、もろもろの荷物が置ける

実用新案を出願したほうがいい!?

## アンカーローラー兼 モーターマウント



ステンレス板と木材、塩ビパイプを使ったアンカーローラー。ロープ留めにクリートを使っているところが、とても機能的であり使いやすい

このパウデッキに装着されたのは、濱本さん考案&自作の「アンカーローラー兼モーターマウント」だ。ステンレスの板と木材を巧みに組み合わせ、まずはアンカーローラーとして実に使いやすい構造になっている。塩ビの水道パイプを使ったローラーは稼働式で、そのすぐ後ろにロープを留めるためのクリートを設置。これならロープの着脱も簡単にできる。

さらに、別に用意されたアダプターをローラー部分にすっぽり被せると、なんとエレキモーターや、おもて差し舵が装着できるモーターマウントへと早変わり。パウカバー裏には補強が施されており、ハンドコンエレキを装着しても全く問題ない。

ハンドコンのエレキモーターは、前部座席に座り、自由自在に動きながら釣りをする使い方だけでなく、ハンドルにエクステンションを付けて、後部座席からも操作できるようになっている。また、前部シートにハンドル固定ユニットを装着することで、スパンカー使用時の推進力として使うことも想定されている。



前部シートにハンドル固定ユニットをつけると、このような状態となる。スパンカー使用時に最適な仕様といえる



1  
ステンレスの板2枚を角材で留めたアダプター。これをアンカーローラー部にすっぽり被せると……



2  
……なんとモーターマウントに早変わり! これはすごくいいアイデア、市販したらきっと売れるに違いない

スパンカー使用時の推進力として、エレキモーターを装着する例は以前に見たことがあるが、トランサムに装着する場合は、全長の短いボートだとスパンカーの効果が出にくいことが多い。その点、このようにパウからの推進力で引っ張れば、スパンカーの効果も得られやすいはずだ(パウの水中抵抗も増す)。

これらは見てしまうと、製作自体はDIYが得意な人ならできそうなものだが、これを思いついた発想力は、「素晴らしい!」としか言いようがない。

## 水道管用継手を使った スパンカー システム



(右)スパンカーの折り畳み構造などは水道管のステンレス製継手を使用。帆の部分はテーブルクロスを流用。すべてお手製だ

(左)「昔からの漁師の知恵です」というこのアイテム。ロープを張る道具として便利に使える。テントやタープなどに小型のものが付属するので、見たことのある人は多いはず

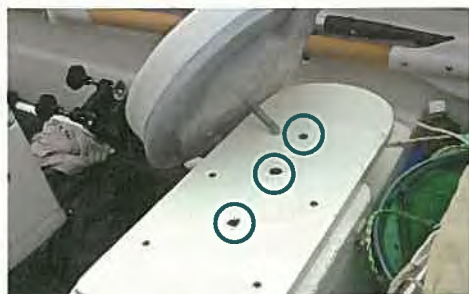


スパンカーの効力を増すために、架台でかさ上げし、船外機の真上に展開するようにした。架台は知り合いの専門業者に依頼してステンレスパイプを曲げてもらった

## 小さいシートがスモボに最適! 市販のイスを 分解流用



ボートの後部シート(ボックス)に自作のベースを装着。カップホルダーをうまく利用して、荷重を分散している



後部シートは座る位置を3カ所から選べるようになっている



背もたれ付きのオリジナルシートは、前後共用可能。回転機構もあり、固定はチヨウネジで簡単に行える

シートの位置を右舷へ移動させた状態。航行する際に快適な位置

濱本さんが使っているシートは、とても小さくてスモールボートにぴったり。色も白いので、汚れは目立つかもしれないが、夏場の直射日光でも熱くならないのがいい。濱本さんのことだから自作したのかと思いきや、「ニトリって知ってますか? あそこで1脚千円前後で売ってるんですよ」と、オリジナルシートのタネ明かししてくれた。ニトリのパイプイスの座面と背もたれ部分を、持っていた木製イスに組み合わせて作ったという。回転式で取り付けも簡単だ。なにより軽量でコンパクトという点が魅力的で、これも市販したら売れそうである。

## ワンアクションで脱着可能な 折り畳み式 テーブル



小さなボートなので、折り畳み式のテーブルを左右に装着。ロッドホルダーもここにつく



扉用のチヨウつがいで折り畳み構造となっているが、スライドさせることで簡単に取り外すこともできる



オールロックでネジ留めすることで完全固定される。純正ハンドルに干渉しないようになっている



船内へ折り畳んだ状態。普通は取り外さずに、船内に折り畳んでトラックへ積載する



魚探の下側(裏)には電動リール用の電源ボックスを配した小テーブル。とても使いやすいそうだ

隅々まで見ていくと、  
次々に見事な機装個所が見つかる。  
**まるでスモボのワンダーランド!**

**パウカバー下のスペース**



電動リール用のバッテリーは、パウカバー下に配置。ボートの重量バランスを考えたこと。デッキ面(黒い部分)はフラット加工されている



パウカバー下のスペースにアンカーロープやパラシュートアンカーを入れるため、走航中に後ろへ移動しないように防護壁。パウカバー下へ物を入れやすするために、折り畳み式となっている

**救命ラダーシステム**



万一、落水したときに再乗艇するためのラダーシステム。ステンレスチェーンに水道パイプを通してある



通常時はこのように収納されている。ステンレスチェーンを使っているのは、浮かないようにするためである

**ロッドホルダーの台座**



愛用のロッドホルダーは着脱式で、台座部分はホームセンターの市販品のステンレス金具を組み合わせて作った

**サイドフロート兼フェンダー**



前後はロープですぐに緩められるようになっており、このように斜め装着も可能。これは、着岸した際に、ボートが岸壁の貝殻などで傷つかないようにするため

**スタビライザー**



2馬力船外機のスタビライザーにも工夫。2馬力船外機を後進させるために180度回した際に、トランサムに干渉しないサイズにした。これでも十分な効果を発揮するという

**イケス**



イケスもスクーパー(排水)部分に一工夫。極度な水の給排水を防ぐために、水道パイプのアングルを装着している